

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時): 工学系研究科電気系工学専攻

参加プログラム: 奨学金付き夏期短期留学プログラム 派遣先大学: 北京大学

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体

5.民間企業(業界:未定) 6.起業 7.その他()

派遣先大学の概要

北京大学は北京市海淀区に所在する中華人民共和国の国立大学。1898 年に設立された。

参加した動機

海外でのフィールドワークに興味があり、中国での日本ビジネスのあり方を現地の学生とディスカッションするというプログラム内容に強く惹かれたため。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

特記事項無し。国際交流課の指示に従って必要書類の提出を行う。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

滞在期間が 15 日未満でありビザを申請する必要が無かったため申請せず。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

特になし

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

国際交流課に指定された海外保険に加入した。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

所属の研究科に海外渡航届けを提出。

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

流暢ではないが英語で議論を行えるレベル。日々の学習が大事です。中国語はまったく分からず。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

特に無し。

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

中国の日系企業を訪問あるいは講演を聴講するという形式のフィールドワークであった。その後、北京大学と東大の学生の混合グループでグループワークを行い、結果発表を最終日にするというものであった。

②学習・研究面でのアドバイス

特になし。

③語学面での苦労・アドバイス等

中国で何かしたいなら中国語の必要性を強く感じた。英語のみでは厳しい。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

大学が手配してくれたホテルに宿泊。ただし、宿泊費は自腹。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

大気汚染はそれほど酷くなかったが、食事が刺激の強いものばかりで気が滅入った。クレジットカードはあまりつかえないのでキャッシュを持参した方がベター。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

特記事項無し。

④要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

航空券:4 万円、宿泊費:3.5 万円、食費:3 万円

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

JASSO 海外支援制度奨学金より 6 万円受給。プログラム応募時に同時に申請。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)

特記事項無し。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

特記事項無し。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)

特記事項無し。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

正直なところ期待していた程のものでは無かった。何より残念であったのは、北京大学の学生の参加者数が少なかったことと彼らのモチベーションである。また、短期留学という時間的制約があったため、多用な企業を回れなかったのも残念であった。しかしながら、最後のグループワークは非常にやりがいを持って取り組めた。自分の専攻とはまったく無関係の分野であったため、多くのことが新鮮で非常に興味深かった。また、グループ内でのバックグラウンドも多様であったため、自分には無い視点や考え方に触れる機会に恵まれたのは貴重な体験であったと思われる。サンプル数は少なかったが中国に対する理解は多少なりとも深まった。

②参加後の予定

東大にて修士課程を修める。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

中国は面白い国です。是非とも一度訪れて中国のポテンシャルを肌で感じてください。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

特になし。

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

特になし。

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時):工学系研究科・修士 2 年

参加プログラム:北京大学・東京大学合同サマープログラム

派遣先大学:北京大学

卒業・修了後の就職(希望)先: 5.民間企業(業界:経営コンサルタント)

派遣先大学の概要

中国の政治や文化の中心である北京にある、北京大学。北京市内の中心地の端に位置する。

参加した動機

日本企業の現地化という重要なテーマを、文化的な側面から観察する本プログラムの趣旨に興味を持ったため。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

締切までに必要な書類は多いので、思い立ったら早めに準備することが重要。英語試験のスコア(TOEIC も使用可能)がない場合は、その受験も必要。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

中国は 15 日以内であれば必要ない。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

中国は特段伝染病などの心配はないため、必要ない。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

大学指定の保険に加入することになる。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

短期(10 日間)であったため、特に手続きなどは行っていない。指導教員には応募前に予め口頭で確認をとった。

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

TOEIC860 点前後。ただし、speaking は(文法上正しいかは別にして)昔から各種プログラムに参加していたため問題なく出来た。プログラムの性質上、中国語ができる参加者は重宝された。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

中国の料理は油っぽいため、胃腸が弱い方は対策をされた方が良いかもしれない。

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

予習としては事前に配布された論文に一通り目を通した。現地での授業は、現地の企業を訪問しながら、グループで課題を設定し、それに関して短期間で調査を行い、発表するというものだった。

②学習・研究面でのアドバイス

グループワークがメインとなる。早い段階で設定したテーマがふさわしくない場合には、テーマを変更する勇気が大事。常に批判的に自分たちのテーマを捉えながらグループ内での議論を進める必要がある。

③語学面での苦労・アドバイス等

中国語を少し勉強しておく、日常生活や北京大生との交流において便利である。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

北京大近くのホテルに宿泊した。費用は 1 泊 175 元だった(3500 円程度)。ホテルは先生に予約して頂いた。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

今回は抗日戦線 70 周年記念の式典の時期に該当したため空気は非常に綺麗だった。しかし、通常であれば北京市内の大気の状態は最悪なのでマスクが必須かと思う。交通機関はタクシー、地下鉄などいずれも便利である。食事は基本的にグループないし全体で同じお店に行くなどした。お金は現金で宿泊費の 2 倍程度持っていった。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

治安は特に問題ない。先方で体調を崩すと全体に迷惑がかかるので、体調が悪くなる気配があれば早めに休むな

ど心がけた。

④要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

航空費 47000 円、ホテル代 1750 元、食費 300 元、通信費 300 元(現地でプリペイド式 sim カードを購入した)

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

JASSO より 6 万円頂いた。これはプログラムに紐付いている奨学金であった。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)

10 日間、蜜にプログラムが詰まっていたので、そこまで余暇時間はなかった。夜飲食を楽しむのがメインであった。一方でプログラム中に万里の長城に登ったり、観光地に巡る機会も用意されていた。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

東大の主催している教員(2 名)がすべての面でサポートして下さった。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)

議論や作業などは大学の設備ではなく、北京大学の東大事務所でおこなった。PC は自分で持ち込む必要があるが、wi-fi などはホテルにも事務所にも完備されている。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

プログラムの意義としては、企業がグローバル展開していくことの難しさを肌身で体感できることが挙げられる。

多くの学生が、卒業後ないし在学中から日本企業に関わることになると思われる。その際、国間の文化的な違いが国民の消費行動、ひいては企業活動にどのように影響するのかを肌身を持って体感できると感じた。

10 日間という短いプログラムだったこともあり、特段成長などはないが、参加する学生の文化的な背景の違いというよりも、背景とする専攻が異なることから来る学びの方が大きかったように思う。

②参加後の予定

中国語など何か英語以外の言語を 1 つ学んでも良いのかと考えている。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

非常に有意義なプログラムなので、都合がつくようであれば、是非参加を検討してほしい。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

特になし。

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時): 情報理工学系研究科 修士2年

参加プログラム: 第2回奨学金付き夏季短期プログラム 派遣先大学: 北京大学

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体

⑤.民間企業(業界:) 6.起業 7.その他()

派遣先大学の概要

清華大学と並んで国内トップの大学ゆえに優秀な学生が集まっておりレベルの高い交流ができる。

参加した動機

- ・中国への興味。
- ・企業訪問への興味。
- ・グループワークへの興味。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

書類が多いので早めに準備を始めるとよい。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)
なし。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)
なし。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)
大学より指定されるもの。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)
留学届けの申請のみ。

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)
英語は支障なくコミュニケーションがとれるレベル、中国語は少し日常会話ができるレベル。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
なし。

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

中国に進出している日系企業の訪問と、グループで決めたトピックに関するプレゼン。

前半は、講義・小売会社・企業家・食品メーカー・カフェ・美容室・大使館・商工会などの訪問を通して概観をつかむ。

後半は、各班で自由に決めるトピックに関して調査し、まとめ、発表する。

②学習・研究面でのアドバイス

グループワーク中のコミュニケーションに苦労すると思いますがそれもプログラムの醍醐味の一つなので楽しみましょ

う。

③語学面での苦労・アドバイス等

中国語をもっとやっていったらよかった。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
大学が指定する近場のホテルで二人部屋。一泊 175RMB(3500 円程)。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
基本は徒歩とバス、地下鉄で移動。食事は屋台やコンビニがいたるところにあるのでそこで。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
すこぶる安全(ただし大気汚染の状況は時期によってまちまち)。

④要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
航空券 4.5 万 + 宿泊費 3.5 万 + その他 1 万 = 8 万。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
プログラムに付帯している JASSO の奨学金を受給。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)
朝はランニングをしたり、夜はみんなでご飯に行ったり。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
一部の学生が個人的にいろいろ教えてくれる程度。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)
なし。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

【中国関係】

・言語を使う機会が多く上達したのはもちろん、全体を通して文化に対する理解が進んだ。

【企業関係】

・中国ビジネスの様々な角度からの現状が大まかに把握できた。

【対人関係】

・グループワークやその他議論を通じて、国籍を超えた集中型の共同作業の難しさと面白さをより感じた。

・プレゼンテーションの重要さと至らなさを改めて痛感した。

②参加後の予定

中国に関わり続けたいと思っている。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

少々変化球的なプログラムではありますが、参加でもしない限りあまりやらないであろうことをするので、やる価値はあると思います。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

Go Global

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

なし。

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時): 公共政策大学院国際公共政策コース・修士 2 年

参加プログラム: PKU-UTokyo Joint Summer Program 2015 派遣先大学: 北京大学

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) ☒3.公務員 4.非営利団体

5.民間企業(業界:) 6.起業 7.その他()

| |
|--|
| <p>派遣先大学の概要 北京大学 精華大学と並ぶ中国第一の大学で、学生も勤勉で優秀である。学内にたくさんの食堂があり、安くたくさん食べられる。</p> |
| <p>参加した動機 本プログラムは北京大の学生と共に日本企業を訪問するというものであり、自分にとっては従来触れる機会のなかった活動であり、中国に対する理解が深まると思われたため参加した。私は 3 年前に北京大学に 1 年間留学していたが、当時は大学で主に座学で国際関係を勉強していたため、①中国経済における企業の行動②中国人学生とのグループワークを通じた交流、に興味を持った。</p> |
| <p>参加の準備 ① プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど) 就職活動と時期的に重なるため早めの準備が肝心。航空券は早割で買うべき。 ② ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど) なし ③ 医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等) なし ④ 保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等) 学校から指定された付帯海学。 ⑤ 留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して) 秋学期の履修期間に履修登録する。 ⑥ 語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等) なし ⑦ 日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど 洗濯する場所がなく手洗いをすることになった。乾きやすい服は重宝する。</p> |
| <p>学習・研究について ① プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等) ・中国市場で奮闘する日系企業への訪問 ・北京大の学生とのグループワーク、関連テーマでプレゼンテーション ② 学習・研究面でのアドバイス ・中国経済や日本企業の進出状況について若干知識を得ておくといよい ・好奇心さえあれば毎日楽しく過ごせる ③ 語学面での苦労・アドバイス等 ・中国語ができるか英語が得意であるとコミュニケーションは楽だが、必須ではない。 ・日本人と中国人だと発音の問題で想像以上に英語が伝わらない</p> |
| <p>生活について ① 宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など) ホテル: 錦江之星、学校側で予約 ② 生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など) ・関軍パレードの時期だったため天気は良好。 ・食事は付近に果物店やパン屋がたくさんあり、食べ物には一切困らない。セブンイレブンもあり。 ・付近には ATM も多いので Cashpassport などのトラベラーズチェックがあると便利。 ③ 危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)</p> |

お腹を壊さないように衛生に気を付ける。

④ 要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

・航空券 44000 円

・食費 均すと 50 元／1 日あれば十分

・娯楽費 50 元の映画を一度、酒を飲むなどは食費に含めてある

⑤ 奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

・奨学金付プログラム

⑥ 学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)

プログラム参加の学生と出かける、個人的に友達と会って遊ぶ。

派遣先大学の環境について

① 参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

完全に問題なし

② 大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)

食堂が大変良い。今回のプログラムでは学校の横の北京代表処で主に活動していたため大学内にはあまり入っていない。

プログラムを振り返って

① プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

プログラムを終えて改めてプログラムの目的にコミットした。自分の専門以外の領域を経験し、また異なる視点を持つ学生と共同作業をすることで視野を広げることができた。来年からの仕事は民間企業とはほとんど関係が無い分野であるが、現場で活動している人々の存在を知っておくことで、中央の政策決定が国民に直に影響を与えることをあらためて意識することができた。また、グループワークの中で尊敬できる友人ができ、自分のモチベーションが高まった。

② 参加後の予定

北京に 2 泊して留学時代の友人と会う。

③ 今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

・中国が好きで、中国のことをより深く知りたいと思っている学生には理想的なプログラムである。

・北京大の学生が非常に良くしてくれたため、彼らの好意に感謝しなければいけない。

その他

① 準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

大众点评

③ その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

【食堂】



【セブンイレブン】



【キューピー】



東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時): 東京大学経済学部金融学科4年

参加プログラム: 東京大学ー北京大学合同サマープログラム 派遣先大学: 北京大学

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体

5.民間企業(業界:) 6.起業 7.その他()

| |
|--|
| <p>派遣先大学の概要 北京大学。中国の文系専攻随一の大学。 なお、グループワークした北京大学生は、国際関係専攻の修士・博士課程の学生が多かった。</p> |
| <p>参加した動機</p> <p>中国に進出している日本企業(セブンイレブン、キューピー食品)や、現地で起業した日本人(ASAKURA、ログラス)のお話を伺う。特に、日本企業が中国市場に現地化するための施策についての理解が進む。</p> |
| <p>参加の準備</p> <p>①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど) 特になし。必要な提出書類をよく読み、〆切以内に提出すること。</p> <p>②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど) 日本国籍を持つ人ならば、約2週間未満の本プログラムにビザは不要。</p> <p>③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等) 予防接種した方が良いでしょう。</p> <p>④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等) 大学から指定された海外旅行保険に加入しました。</p> <p>⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して) 特になし</p> <p>⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等) 修士レベルの英語。</p> <p>⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど 腹を下したときのために、薬をもっていくとよい。</p> |
| <p>学習・研究について</p> <p>①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等) 中国に進出している日本企業(セブンイレブン、キューピー食品)や、現地で起業した日本人(ASAKURA、ログラス)のお話を伺う。</p> <p>②学習・研究面でのアドバイス 企業へのインタビューに加えて、自分なりに調査をデザインし、北京市民にインタビューする機会に備えて、予習しておくとい。</p> <p>③語学面での苦労・アドバイス等 特になし。中国語を少し勉強しておくとい。</p> |
| <p>生活について</p> <p>①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など) 大学指定。</p> <p>②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など) 食事が脂っこいので、体調管理には気を付けること。</p> <p>③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)</p> |

夜は不用意に出歩かないこと。

④要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
渡航費6万＋宿泊費4万

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
JASSO

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)
特になし

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
園田教授、卯田講師、北京大学生からのサポートがありがたかった。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)
Wifi 環境が弱い

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
中国に進出している日本企業(セブンイレブン、キューピー食品)や、現地で起業した日本人(ASAKURA、ログラス)のお話を伺いました。特に、日本企業が中国市場に現地化するための施策についての理解が進みました。
一方で、日本人マネージャーからみた中国市場の観点は得られたものの、中国人労働者からみた日本企業の労働環境の視点が得られなかったのは残念でした。
しかし、企業訪問だけでなく、美容の文化に関して中国の学生や働いている女性にインタビューする調査を、北京大学生と東京大学生が共同で自らデザインできたことは貴重な経験になりました。
また、ちょうど抗日70周年記念式典をテレビ越しに見ることができ、中国人の日本に対する見方「二元論」について教授や学生のなかで盛んな議論が繰り広げられたことは、大変勉強になりました。

②参加後の予定
来年3月に再び中国へ、大学のプログラムで渡航します。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス
中国は変化が目まぐるしく、興味深い国です。是非参加してみてください。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物 特になし

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。
特になし

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時):前期教養 文科二類 1 年

参加プログラム:東京大学北京大学合同サマープログラム 派遣先大学:北京大学

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体

⑤ 民間企業(業界:) 6.起業 7.その他()

| |
|--|
| 派遣先大学の概要 |
| <p>参加した動機 第二外国語として中国語を習っていたこと。 学生と交流することで、自分の知らない中国の一面にであえと思ったこと。 奨学金が少し出たため、負担がかなり軽減されたこと。</p> |
| <p>参加の準備</p> <p>① プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど) OOSMA への入会が分かりにくかった。 確認の連絡が来ないために、自分の手続きがどこまで終わっているかが分かりにくかった。</p> <p>② 医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等) 速めに病院にいて旅行の日程の分の薬を処方してもらった。</p> <p>③ 保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等) 学校が進めている保険は金額制限があったため、高額な請求に備え自分で上限なしの保険に加盟した。</p> <p>④ 留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して) なし</p> <p>⑤ 語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等) サークルにて、英語での司会、ディスカッション等何度か経験。</p> <p>⑥ 日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど 行く国にたいする知識をつけること。</p> |
| <p>学習・研究について</p> <p>① プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等) キューピーやセブンイレブンなど日本資本から生まれた北京の企業を見学に行ったこと。</p> <p>② 学習・研究面でのアドバイス 事前にプログラムに関わる本や論文に目を通してよくとよいと思う。</p> <p>③ 語学面での苦勞・アドバイス等 人によって英語の能力に差があるため、中国語ができる人の方がコミュニケーションは円滑にとれる。</p> |
| <p>生活について</p> <p>① 宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など) ドライヤー、wifi、タオルあり。</p> <p>② 生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など) レストランが多い。</p> <p>③ 危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など) 油の多い料理に胃が弱っていたため、胃薬を何度か飲んでいて。</p> <p>④ 要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算) 航空賃約 4 万、その他 8 万、土産約 1 万</p> <p>⑤ 奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)</p> |

| |
|---|
| <p>⑦ 学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など) 帰国前に頤和園、789 や后海に観光に行った。</p> |
| <p>派遣先大学の環境について</p> <p>① 参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等) 中国人のスタッフの女性がついていてくれたので、安心して生活できた。</p> <p>④ 大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等) 食堂は安く、色々選べて困らない。</p> |
| <p>プログラムを振り返って</p> <p>① プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感 学生を通して、今までとは違う中国についての肯定的なイメージを持つことができるようになった。 北京大の生徒と一緒にプレゼンを準備する上で生じた衝突も、良い経験となった。</p> <p>② 参加後の予定 中国語のスピーキング能力の向上のために努力する。</p> <p>⑤ 今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス 他国を日本と比較して減点法で評価するのではなく、その国そのものを加点法で評価すると、一国の良さがよくわかるようになると思う。</p> |
| <p>その他</p> <p>① 準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物 社会人のための現代中国講義</p> <p>⑤ その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。</p> |

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時): 教養学部理科1類1年

参加プログラム: 派遣先大学:

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体
5.民間企業(業界:) 6.起業 ✓7.その他(未定)

| |
|--|
| <p>派遣先大学の概要 北京大学との合同サマープログラムでした。北京大学の学生は英語が堪能でしっかりとした考えをもっているという印象を受けましたが、基本的には日本の学生と変わらないと思います。</p> |
| <p>参加した動機 環境問題に興味があり中国をよく知ることは今後役に立つだろうと思ったことと、今まで海外に行ったことがないという焦りもあったからです。</p> |
| <p>参加の準備 ① プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど) 提出する書類で自己PRすることが大事です。 ②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど) ビザは不要でした。 ③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等) 短期間の留学であり、留学先が中国であることから特にしていません。 ④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等) 指定されたもので十分と思われたので、していされたもののみに加入しました。 ⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して) 学部1年生なのでプログラム参加によって単位は取得できませんでした。 ⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等) 北京大学の学生と英語でディスカッションする必要があったので、洋画をみてリスニングをするなどの対策はしたのですが、実際行ってみると英語でコミュニケーションをとるのは難しく英語力の欠如を感じました。 ⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど 私は日本のお菓子を持っていっただけですが、北京大学の学生もおいしく食べてくれました。会話のきっかけにみなるのでおすすめです。 また、語学や現地の文化についてもっと勉強しておけばと後悔しております。</p> |
| <p>学習・研究について ① プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等) 北京大学の学生と、中国で成功している日本企業を訪問し、ディスカッションを通して意見交換をし、グループごとに考えを発表するものでした。予習として、事前に推薦図書を読んだり企業のホームページに目を通すなどしました。印象に残っていることは、学生それぞれの企業への質問の切り口が独特で興味深かったことです。 ② 学習・研究面でのアドバイス ほかの参加者は学部4年生以上がほとんどで自分の専門分野の深い知識やさまざまな人生経験をもっていました。私は知らないことだらけだったので積極的に先輩たちに質問したところ多くのことが得られました。 ③ 語学面での苦労・アドバイス等 中国人の訛りもあるせいか英会話は本当に困難でした。日ごろからこつこつ勉強することの大切さがわかりました。</p> |
| <p>生活について ① 宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など) 指定されたホテルに泊まりました。 ② 生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など) 日本と気候が似ていて過ごしやすかったです。交通機関はバス、地下鉄、タクシーを利用し、食事はプログラム参加者にとりました。お金は現金のみ使いました。</p> |

③ 危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気がつけた点など)
治安もよい場所だったので特にしていません。

④ 要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
航空賃5万、宿泊費4万、食費・交通費・娯楽費2万

⑤ 奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
指定されたもので6万円頂きました。

⑥ 学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)
映画やカンフーミュージカルをみたり、芸術エリアに行き中国の文化を体感しました。

派遣先大学の環境について

① 参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
短いサマープログラムだったので特にありませんでした。

② 大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)
東大の事務所で主に活動していましたが、設備は整っていました。

プログラムを振り返って

① プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
感じた事は語学力の重要性、自分の教養のなさ、中国に対して以前持っていた考えがまちがっていたことなどたくさんあります。

② 参加後の予定
英語と第二外国語として学んでいるスペイン語での会話ができるようになることが今の目標です。

③ 今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス
予想よりもずっと多くのことが得られるのでぜひ参加してください。

その他

① 準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

「中国人の心理と行動」 園田茂人 「そうだったのか！中国」 池上彰

② その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時): 人文社会系研究科

参加プログラム: 北京大学・東京大学合同サマープログラム

派遣先大学: 北京大学

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 ②.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体

5.民間企業(業界:) 6.起業 7.その他()

派遣先大学の概要

今回は北京大学の国際関係学院に所属する学生と共同でサマープログラムを行なった。

参加した動機

日本企業の中国進出に関心があったため。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

特に無し

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

特に無し

③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

特に無し

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

プログラムが加入を義務づけているものに加入した。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

特に無し

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

特に無し

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

特に無し

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

本プログラムは、今年東京大学と北京大学との間で締結された戦略的パートナーシップによる国際交流活動の一環として位置づけられ、東京大学からは東洋文化研究所の園田茂人教授・卯田宗平講師、北京大学からは国際関係学院の帰泳濤副教授がプログラムの担当となり、東京大・北京大あわせて20人ほどの学生が班に分かれて、中国でビジネスを展開する日本企業を訪問し、現地でのビジネス展開の戦略や日本人管理層と中国人労働者の間の人事管理関係などについてお話を伺った。これ以外に、それぞれが決めたテーマに沿って、各班が独自に調査を行い、最終日に関係者を招いた最終報告会を開いた。

②学習・研究面でのアドバイス

特に無し。

③語学面での苦労・アドバイス等

特に無し。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

北京大学近くのビジネスホテルを利用。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

大学近辺には飲食店やコンビニが立地しているので買い物には困らない。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
特に無し。

④要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
所属するリーディング大学院からの支援で特に無し。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
特に無し。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)
特に無し。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
特に無し。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)
特に無し。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

私が所属した班では、都市部の中所得以上の女性をターゲットにした美容産業の戦略について扱った。対象を女性に絞った背景には、訪問をした美容室 ASAKURA やセブンイレブン北京では、メインのターゲットが比較的若い女性であることに驚きを覚えたことがある。当初は社内の労務管理に関心があるメンバーが多かったが、調査上の困難から、消費者に視点をあてた分析に移っていった。ASAKURA への訪問で、中国では日本のような薄い化粧はあまり受入れられておらず、赤い口紅や濃い化粧といった中国人が好むメイクに重点を移す「現地化」を行っていることが分かった。今回のプログラムでキーワードの一つになった「現地化」は、日本企業が中国に参入する際に、日本で売れているものをそのまま売るだけでは現地の客には受入れられず、現地社員等と協力して日本の製品やサービスの質を保ちながら、中国人が受容しやすいものを目指すことを意味する。ASAKURA の特徴は、現地化をはかりながらも、日本で売れている自社の製品の良さを伝えたいというメーカー企業のスタンスとは異なり、中国人に受入れられるサービスを一からつくるという点にあった。我々の班は、化粧品と美容サービスと定義された美容産業における消費行動という視点から、日中の違いについて考察する方向性をとった。現役の大学生並びに若年勤労者へのインタビュー調査の結果、若者は基本的に毎日化粧する習慣を持っていないことが分かる。何が化粧を妨げているかについては、化粧をする時は就活などの特別な時であること、短い化粧を重視することといった合理的な側面、またそもそも化粧をする技術がなく、周りに教えてもらう人もいないという点が分かった。また、大学では ASAKURA が提携しているようなファッション雑誌を読む習慣はあまりなく、化粧をする女性に対しては怠惰であるというイメージが持たれがちであることが示唆された。このように、調査を通じて日中の化粧文化には無視できない差があり、美容業界にとっては、まずどのように女性に化粧や美容に興味を持ってもらえるかという点を考える必要があることを最終報告会にて指摘した。

それでは、どのようにすれば中国の都市部に住む若年女性は美容に関心を持つようになるのだろうか。インタビューから示唆を得たのが、美容への関心は個人が参照する周囲の環境によって異なるのではないかという点である。日本や韓国に留学をした経験のある複数の回答者が、留学当初では、これらの国では女性がほとんど化粧をしていることにに対して驚きを持っていたと述べていた。しかし、数ヶ月を過ごすうちに、次第に自分たちも化粧をするようになったという。彼女たちは、中国に帰国した後も様々な理由でほぼ毎日化粧をしている。こうした事例から、我々は発表の中で彼女たちの準拠とする集団が変われば、化粧への関心が向くのではないかと考えた。

報告は ASAKURA をはじめとする美容業界に対する具体的な提案となったが、多文化共生という文脈に引きつけて考えるならば、以下のような事例を考えることができる。ある習慣を持つ集団 A に対して、別の集団 B の中で自明視されている別の制度や慣行を導入する際、これがスムーズに実行されない場合がある。企業内部であれば、日本式の

生産様式を中国の工場に導入しても、日本で行ったような生産性が達成できなかったり、消費者との関係で言えば、日本で支持されている商品を中国市場で投入したとしても、それが思うようには売れないという事例が考えられる。この溝を埋める作業は典型的には「現地化」と呼ばれてきた。しかし、我々の班が提起したのは、現地の慣行にあわせてモノやサービスを変えるのではなく、現地の人々の価値観自体を変えることによって制度的な齟齬を解決しようというアプローチである。その上で、我々の班はそうした価値観の変化は準拠する集団の変更によって生じることを述べた。事例がもつ性格にもよるが、準拠集団の変更による慣行自体の変化というメカニズムの説明が適用できる事例は今回の化粧産業には限らないと考えられる。

グループによる研究以外にも、現地でビジネスを展開する人々から直接話を伺うことで、中国市場の今を肌間隔のレベルで触れることができた。今後は、今回のプログラムで得た知見を研究にいかしていきたい。

②参加後の予定

特に無し。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

今回が一回目のプログラムでした。今後は今回をふまえより魅力的なプログラムになると思います。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

特に無し。

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

特に無し。

The University of Tokyo Study Abroad/Student Exchange Program Report Form

Date: 10/26/2015

Faculty/Graduate School: Interdisciplinary Information Studies / GSII Year: M2
 Program Attended: UT-Peking University Summer Exchange
 Organizing Overseas Institution/University: Peking University
 Occupation after graduation (intended): 1. Research
 1. Research 2. Specialist (Medical • Judiciary • Accountant) 3. Civil Service
 4. NPO 5. Private sector (Type of industry:) 6. Entrepreneurship
 7. Others ()

Outline of the receiving institution overseas
 Peking University in Beijing, a top-class research university with strengths in the arts as well as sciences.

Reason why you decided to participate

I had great interest in how cultural exchange and business exchange intersect, and I especially wanted to see how the “Japan” way of doing things for particular companies transformed to fit the needs of the Chinese market.

Preparation for the program

(1) Application process (please give any advice on dealing with the application process)

I had to submit an application and essay outlining my reasons for participating. I answered frankly and had no problems with this.

(2) Visa application (type of visa, where to apply, processing time, any advice on visa application)

As a citizen of the US, I was required to apply for a particular visa to enter China. Fortunately, the IHS office handled the details through a travel agency. All I needed to do was provide a copy of my passport and sign a few forms.

(3) Medical check-ups (health check-ups before departure, inoculations, etc.)

I had the standard university medical checkup. I don't think any other special preparations were necessary.

(4) Insurance (information about insurance for travel/studying abroad purchased)

There was a standard insurance plan required for students entering the program. We also needed to register for OSSMA, a security service for studying abroad. I had to be careful and watch over my mailbox for important registration forms for the insurance.

(5) Procedures required by your Faculty/Graduate School (any information about course registration, credits, exams, submission of dissertations etc)

There were no transfer credits from Peking University. All I needed to do was to register for the appropriate courses on UT-Mate.

(6) Language preparation (language level (English, etc.), lessons etc.)

I had absolutely no abilities in Chinese and prepared myself with only a few short phrases. English was important as it was the lingua franca for the program, but my intermediate Japanese skill was useful for keeping up with my fellow UT students.

(7) Items which should be taken with you from Japan and any other advice on things which should be done before leaving Japan. Researching on accessing the internet and how to obtain a mobile Wi-Fi spot and the like. Being connected to the internet was very important for completing our assignments and conducting research.

Information on the academic/research program

(1) Outline of the program (Style of the lessons/preparation study/review study, thing which left an impression on you, etc.)

We were looking at how Japanese companies dealt with the issues surrounding conducting business in China. For that, we ended up taking copious notes at various presentations by company representatives.

(2) Advice on aspects of academic/research work

Part of our research responsibilities included group work, a portion of which were surveys our group decided to conduct. There were two things I wish I knew before conducting the surveys. The first was where and when to find people to answer them. The second was a clear idea of the survey questions. Our survey was originally about sake consumption, so we decided to ask people at bars or clubs, but it turned out that many of these establishments did not allow us to survey. It would have been a good idea to check whether surveying was OK or not beforehand.

(3) Problems experienced with language issues, advice concerning language, etc.

To tour around the city, it's much nicer to do so with a native Chinese speaker. If that's difficult, make sure to bring some sort of kanji dictionary. Navigating on the subway was nearly impossible for me without help, and I wish I prepared for it beforehand.

Aspects of life

(1) Accommodation (Type (home-stay, room-sharing etc.), cost, atmosphere/appearance of accommodation, how you found it, etc.)

We stayed at a standard hotel with two people to a room. It was as advertised, a bed and a bathroom. I was lucky and had a good roommate. The service was also good, and they replaced our towels and cleaned our beds daily.

(2) Living environment (such as climate, environment around the institution, transport facilities, food, managing your money (overseas money transfer, credit cards))

The living environment was fine, and the sky was very clear for most of the time we were there (there was some sort of parade necessitating restrictions on cars on roads). The subways were inexpensive and reasonably efficient, though as I mentioned before a bit difficult to navigate. I never used my credit cards there and only exchanged cash at the airport and a bank. Exchanging currency at a bank was actually somewhat difficult, and it seemed for a moment that they would not have allowed it. I would recommend someone with good Chinese speaking skills to accompany you.

(3) Aspects of risk and safety management (safety of local region, condition of medical facilities, any action taken in maintaining your mental and physical health, etc.)

Well, I ended up getting very sick the last 2-3 days of the program. I'm not sure what exactly was the cause, but I wasn't very careful in choosing places to eat and washing my hands. I wish I did so. Otherwise, the neighborhood around Peking University felt very safe at all times of the day.

(4) Details of expenses (breakdown of costs, such as airfare, program fees, cost of required books, rent, food, travel cost, money spent on entertainment)

I don't remember exactly how it was spent, but the main costs once in China were just the hotel room and meals. We also had to pay for tickets to the Great Wall.

(5) Financial aid (if you were receiving financial aid/scholarships, please give the name of the source of the aid, amount, and how you found it, etc.)

The IHS program provided a lump sum (a bit over 100000 yen, I think), payment as well as plane tickets. I heard about the program through looking over the UT course catalog.

(6) Activities other than academic/research work (sports, cultural, volunteer/internship, weekend activities, etc.

We got to visit the Great Wall as part of the program as well as some fun shopping districts as individuals.

Environment of the receiving institution

(1) Support facilities for students taking part in the program (such as language, academic, living support mechanism and counseling services)

The Peking University students as well as representative professors and administrative staff were very helpful. There was also a U-Tokyo office at the university that was an important place for us to plan our research.

(2) Facilities (libraries, sports facilities, cafeteria, IT equipment and facilities, etc.)

Our program was very short, so we basically only used the cafeterias there. The food was very good.

Looking back over the program

(1) The significance of the program and how you have developed by taking part in it, any other impression from having studied abroad

I was very happy to learn about China, the lives of Peking University students, as well as how Japanese companies operate. It has made me more interested in the Chinese language, and I bought a beginner-level textbook to improve my Chinese skills at a bookstore near the Peking University.

(2) Your plans having studied abroad

I want to take more business courses as well as courses about China. I have begun this process with a course dealing with Chinese family law as well as other topics in East Asian law.

(3) Any messages or advice for future participants

Apply for studying abroad or academic exchanges! It's very fun and definitely worth the effort, especially if you haven't had a chance to visit the country before.

Miscellaneous

(1) Websites or publications which were useful while preparing for or during your time overseas

Amszon.co.jp to buy a mobile Wi-Fi. Baidu maps for street views.

(2) Please submit any photographs which may be used on the University of Tokyo websites or publications.

Report: UTokyo-Peking University Joint Summer Program 2015

September 14, 2015

Time and Date: August 28 (Fri.) to September 6 (Sun.), 2015

Venue: Beijing, China

I felt strangely calm upon entering the soaring atrium of Beijing Capital Airport, even though I am usually nervous when faced with the unknown. Perhaps it was the air of indifference from the customs staff, or the fact that my immigration procedure consisted of wordlessly shuffling papers and making the slightest of nods to pass through. Perhaps it was the branding plastered everywhere – advertisements for everything from Cartier to KFC – that reassured me that this place might not be so unfamiliar after all. In fact, the entire building filled me with confidence, a desire to stroll out the front doors and just wander, seeing where the roads would go. But that was not to be: I was here for a purpose, bound by a schedule, and needed to find our group's meeting point.

The course overview stated that we were to explore the difficulties that Japanese companies encountered when entering China and how they attempted to overcome such challenges. Through activities guided by representatives of a selection of such companies, we had the fortune of being able to compare these experiences across industries. With Kewpie Beijing, we saw just how important quality control and standardized processes were to producing safe and delicious food. Through 7-11, we discovered Chinese consumers' preferences for localized foods as well as what sorts of employee management strategies were useful. At Asakura, the difficulties of expanding in the underdeveloped luxury salon market, as well as catering to different price tiers and Chinese tastes in makeup and hairdressing, became very apparent. At the Japanese Embassy, we were able to hear from people in the government and from industry cooperatives on how agreements and policies are forged. Beijing LOGRAS was the most personal of the presentations, letting us see through the eyes of an entrepreneur how the market for corporate websites grew.

As part of our class work, we were tasked with coming up with a presentation on some aspect related to what we learned while visiting Japanese companies. Our group decided to find a niche product that had not caught on in China. It turned out that one member had ample personal experience with the production of sake in Japan, and we set out to see if there was a possibility, however remote, of expanding the market for Japanese sake in China. While a series of companies (such as Takara Shuzo) had already set up shop in China, we felt that there were a few things that might help increase sales and supported this with surveys we took of Chinese opinions. Fieldwork at points of sale was also conducted. As a result, we decided on increasing the packaging quality of sake (as a portion of the rice-based liquors sold in China are in fact given as gifts) as well as creating flavors that would better fit palates in cities like Shanghai, whose residents seem to prefer drinks with lower alcohol content. Also, we thought it would be a good idea to create an association dealing with sake-related distribution and advertising. Such an association could conduct quality assurance checks, make sure the sake is being refrigerated properly, and coordinate cooperative efforts among sake makers in

Japan.

Of course, just as important as these guided activities and projects was the chance to make friends with and learn from the students at Peking University, known colloquially as Beida. I got along especially well with a student around my age who also studies international politics, and I enjoyed hearing his perspective on China's relationship with Japan. From spending time with him, I learned life as a Beida student was a little different from my preconceived perceptions. First, rather than just an austere series of academic buildings, the campus was varied and lively, peppered with small grocery stores and assorted shops. Second, it was surprising that undergraduate students slept four to a dormitory room and many graduate students slept two to a room, a state of affairs that might have been a cause of what I perceived as a certain frankness in relationships there. Most surprising of all was the willingness of many people to approach strangers. In fact, I probably had more people in Beijing come up to me and speak in that short period than I had during my entire time at Todai.

Finally came our exploration of Beijing and its surrounding area. We were fortunate to be able to visit the Great Wall as well as tour the beautiful Beidai campus as part of the program. We were also happy to have some free time for ourselves to visit trendy places like Houhai Lake and Wudaokou, especially as we could see what young people did for fun. The cuisine was also incredible, and of course worlds apart from the "Chinese" food I ate in the US. Even though I was maybe a bit too risky with trying out street food, I'm glad to have done so.

All in all, I am very grateful to the people at the IHS program, especially Professor Sonoda and Professor Uda, for making this trip possible. The same goes for the great hospitality from those at Beidai. Hopefully one day I will have the chance to learn from people in other countries as well.